ページ	質問議員	質問事項
8	栗原惠子	●緑あふれる、にぎわいのあるまちに暮らすについて ●豊かな心を育むまちに暮らすについて ●空き家対策について
9	藤原義春	●伊奈町の小・中学校のいじめの認知件数について ●伊奈町の小・中学生の学力向上について ●高齢者と小学生が集うイベントの開催について ●蓮田駅入口の交差点での交通事故を減らすことについて ●伊奈南中学校の中庭について
9	村山正弘	●平成28年度予算編成検討時期にあたっての町の関連事業 ●地方創生法関連について ●ふるさと納税
10	五味雅美	●「地方版総合戦略」の策定状況について　●小中学校施設の修繕・改修について ●通学路の安全対策について　●新都市交通との新協定について
10	大沢　淳	●投票率向上と選挙権を保障するために ●役場庁舎をはじめとした公共施設の照明及び道路照明防犯灯のＬＥＤ化 ●自転車道の利用状況と今後の整備方針 ●災害時の障害者避難・生活支援の課題 ●認可保育所での障害を持った子どもの受け入れ
11	上野尚德	●伊奈町の学校教育について ●伊奈町の消防について　●伊奈町の行財政について
11	中原敦子	●「チーム学校」を見据えて　●ニューシャトルの各駅にバラの花を
12	戸張光枝	●いじめや不登校を生まない魅力ある学校づくり
12	齋藤照夫	●未開通の道路について
13	上野克也	●ＩＣＴの推進について ●災害廃棄物の処理について ●障害者差別解消法の取組について
13	水上邦雄	●人事評価制度の体制と評価基準について ●人事評価制度の運用と評価について ●特定健診率の向上と予防医療の充実を

11人が登壇

12月定例議会は、11人の議員が一般質問を行いました。質疑応答の要旨は質問した議員が要約したものです。なお会議中の発言と答弁は、伊奈町議会ホームページおよび図書館に備えてある会議録でご覧になれます。

（２月下旬掲載）

伊奈町議会　検索

学校施設の老朽化改修の早期実現を

栗原惠子（くりばらけいこ）　議員

問　学校施設の維持管理と改修について、緊急性を帯びた事案については即修繕する必要があると思うが。

答　予算の範囲内での対応が可能な修繕は、町教育委員会と学校側とで日程調整を行い、児童・生徒の安全を最優先に修繕を実施する。予算内での対応が難しい修繕については、財政担当と協議し、予算措置をした上で修繕を実施する。

「移動式赤ちゃんの駅」

問　伊奈まつり、バラまつり、さくらまつり、町民運動会などに設置を。

答　子育て世代を支援する方法、また地域づくりを推進するためには、子育て中の親子や母子が町内で開催される各種の催し物やイベント等に参加する機会を増やしたり、参加しやすい環境を整えていくことは、重要なことと考えている。設置については、財政状況もみながら検討する。

イベント会場などで授乳やオムツ交換が便利にできる「移動式赤ちゃんの駅」（川越市のもの）

町制施行記念公園の充実

問　あやめ園およびアジサイ園の再生、または活用について、園児が安心・安全に遊べる公園の確保「大砂場」の整備は。

答　あやめ園については財政面を含め有効な利用方法を検討している。アジサイ園については、当面、現状の維持管理を継続する。大砂場については、快適に利用できるよう、修繕等の対応を行う。

高齢者と小学生が集うイベントの開催を！

藤原義春（ふじはらよしはる）　議員

問　高齢者と小学生が集うイベントの開催を。

答　放課後子供教室やWaku楽体験教室を実施したり、老人福祉センターで世代間交流事業として、将棋大会やオセロ大会を行っている。

伊奈町の教育水準を埼玉県トップクラスに！

問　文部科学省や埼玉県や伊奈町の学力調査をどうとらえ、どう活用しているのか。

答　毎年の調査を比較して、生徒一人一人の学力の伸びを把握するとともに、指導方法の改善・充実を図る。また、調査結果をていねいに分析し、個に寄り添った指導の充実を図る。

地域の絆を深める集まりを開催する小学校

いじめ問題の解決を！

問　伊奈町のいじめの認知件数が、小学校25件、中学校34件であるが、どういう解決を図るのか。

答　生徒に「こころの教育」を行い、相談機能も充実させる。また、常に、いじめがあるのではないかと危機意識を持つ。

伊奈南中学校の中庭の地盤の改善！

問　伊奈南中学校の中庭がデコボコしているが、改善の予定は。

答　中庭は、現在、生徒の立入禁止としていて、財政状況も踏まえ、整備する。

蓮田駅入口の交差点

問　蓮田駅入口の交通事故を減らすには。

答　看板設置を検討する。

ゴミ処理現場建設基金を新設すべきだ

村山正弘（むらやままさひろ）　議員

平成28年度予算編成時期にあたって

問　①　新設ゴミ焼却場

クリーンセンターの長期運転による老朽化、延命措置等からも上尾・伊奈広域事業としてのゴミ焼却場新設に期待が大きい。

クリーンセンター

上尾・伊奈広域協議会の協議状況はどうか。

答　現在、上尾市と伊奈町では、広域ゴミ処理検討会を設け各種検討を進めている。

問　ゴミ処理場の建設には膨大な費用が予想されるので上尾市と同様に建設基金を設立すべきだ。

答　現在は公共施設整備基金の中で対応しているが、状況を見極め基金設置に対応する。

②　緑のトラスト関連

問　小室無線・KDDIの森は整備されて4月に公開される。整備された状態の継続的な維持管理の考え方、施策はどうか。

答　桜並木と芝地周辺の整備は町が行う。他の県有地は県と緑のトラスト協会によるボランティア主体で行う。

地方創生法関連

①伊奈町「まち・ひと・しごと創生本部」

問　創生本部の議論状況はどうか。

答　基本データ分析をし、後の目標設定をする。

ふるさと納税

問　29品目特典の反応は。

答　順調である。

ニューシャトルの運賃引き下げを

五味雅美（ごみまさみ） 議員

問 運賃はJRの1・4倍、通勤定期割引率はJRの7割ほど、通学定期ではJRが最大（中学生用）で72・2%に対しシャトル50・2%とJR通勤定期より低く、学生の負担は特に大きい。本年からの新協定で町の負担が減ったが、その分を利用者負担軽減に活用できないか。またJRは株主利益優先で毎年400億円を超す株主配当を行いながら赤字事業切り離しの姿勢だが、関連会社であるJRに支援強化と、国には地域交通予算の増額を求めるべき。

答 難しい。

雨漏り修繕が急がれる小室小学校

学校施設の修繕を早急に

問 学校は子ども達にとって生活の場であり、快適に過ごせることは成長に大切なこと。小中学校施設の修繕・改修計画の進捗は。また小室小学校の雨漏り対策を早急に。

答 財政状況に応じて対策を行っている。

通学路にガードレールを

問 車のとび込み事故対策にガードレールが必要。

答 毎年の「通学路安全点検」で要望されれば検討。

「伊奈町総合戦略」は住民福祉に

問 策定に際しては住民福祉の増進という自治体の趣旨に沿うものに。

答 少子化と人口維持、活力ある地域を維持するため4つの目標を定め、これを今後具体化する。

災害時の障害者支援

大沢（おおさわ）淳（じゅん） 議員

問 視覚・聴覚などあらゆる障害への支援施策を。

答 避難所運営マニュアルにおいても、受け入れ時から運営全般にわたり配慮をおこなうことを明記している。

障害者が周りの方にもわかるような専用ベストの導入を検討している。

問 福祉避難所の設置は。

答 町内の老人福祉施設と上尾市の障害者施設と協定を結んでいる。

郵便等、指定病院等における不在者投票

問 制度の周知と指定病院は。

答 臨時広報、ホームページに掲載している。町内では4か所指定されている。

公共施設と街路灯のLED化推進

問 今後の計画は。

答 役場庁舎は他の設備更新に合わせて検討したい。防犯灯は、早期の設置を目指す。

自転車道の整備

問 北部区画整理地内での通行区分線の塗り直しと全面塗装化を。

答 著しい劣化個所は随時補修をおこなう。

問 いな穂街道の自転車道は。

答 歩道を自転車の通行を前提として整備している。

認可保育所での障害を持った子どもの受け入れ

問 障害児枠は。

答 上尾市で実施している。町では障害手帳がある場合、入所選考の評価で加算を設けている。

荒川区のコミュニケーション支援ボード
言語にハンディのある方の
コミュニケーションツール

未来を担う子どもたち 伊奈町を造る「学校教育」

上野尚徳（うえのなおのり） 議員

問 土曜日の授業の復活が増。町の考え方は。

答 全ての学校で統一しての実施は困難。

問 将来的な土曜授業は。

答 授業数の増加に伴い、子ども、教員の負担増が考えられる。学校行事等は推奨していく。来年度、二学期の始業式を8月27日とし、教育活動を円滑に進める検討をする。

町民の生命・財産を守る伊奈町の消防

問 消防指令センター共同運用から2年7ヶ月。上尾市の応援状況は。

答 消防・救急合わせ、平成25年、26年共に22件。平成27年は、10月末の時点で0件。

問 状況をどう考えるか。

答 融通を付け合う応援体制が肝要。信頼関係の構築に協議を続けていく。

町の発展、将来の課題

問 野川町政12年。主な事業は。

答 安心安全ステーション。県外の市・村と防災協定。シャトル駅にトイレ、エレベーター。いな穂街道の全線整備。北保育所・子育て支援センター。中学まで医療費無料。小針小体育館の建替。学校の耐震化完了。小中学校教室にエアコン設置等。

問 今後の課題、懸念となる具体的な事案は。

答 役場北庁舎の耐震化。クリーンセンターの老朽化。教育施設の老朽化等。課題は多く、将来を見据え対策を検討していく。

信頼関係の向上で、実り多き消防広域化を！

スクールカウンセラーを増やすべきでは

中原敦子（なかはらあつこ） 議員

ニューシャトルの各駅にバラの花を

問 ニューシャトルの各駅に、バラの花の花壇を造ってはどうか。

答 現在、駅前広場が整備されている駅は3箇所である。「バラ」の植栽は、町外からの来訪者へのPRにもつながるので、実際の管理体制の課題等を今後十分に研究していく。

※チーム学校

これまで何でも教員が切り盛りしていた学校を専門的スタッフの配置と地域との連携により、教員が授業に専念できる体制づくりを目指すもの。

「チーム学校」の10年後を見据えて、今取り組むべきこと

問 スクールカウンセラーの人数か業務日数を増やすべきではないか。

答 スクールカウンセラーによる相談業務等は、児童生徒の抱える問題の解決や軽減に成果を上げているので、県教育委員会に対し、スクールカウンセラーの勤務日数の増加等を今後も要望していく。

問 伊奈町の小・中学校へ、近い将来スクールソーシャルワーカーを配置する考えはあるか。

答 スクールソーシャルワーカーの直接的な活動対象は、保護者や教職員、関連機関等であるため、スクールソーシャルワーカーの配置場所は、現行通り町教育センターが効果的であると捉えている。

バラの花でおもてなしを!!

いじめや不登校を生まない魅力ある学校づくり

戸張光枝（とばりみつえ）　議員

中一ギャップ解消への取り組みについて

問　鳥取市では小中兼務教員を配置。兼務教員のメリットは長期的な視点で児童の成長に対する予測が立てられ、より適切な対応ができるとある。町内に小中兼務教員はいるか。

答　小中兼務教員はいないが小学校段階での予兆を見逃さず、中学校ではそうした小学校での状況を十分に把握し、情報を共有して指導にあたるよう、きめ細やかな小中連携の取組をより一層推進するよう各学校に働きかける。

放課後こども教室について

問　大阪府高槻市は小中学校で放課後学習室を開催。学習支援コーディネーターと地域のボランティアの方々の指導で「自分のペースで苦手なことに向かう」学習ができ評判。茨城県日立市も部活引退後の中学三年生を対象に放課後学習室を開催。教員OBなどの力を借りている。伊奈町もサマースクールで学習支援を行っているが開催日数が二日間と短すぎ学習の遅れを取り戻すには短すぎる。未来の担い手である子供達の持てる力を最大限に伸ばすため放課後学習室開催の考えは。

答　ウィンター講座の申込み状況、生徒の感想をみながら研究していく。

放課後学習室イメージ

小針新宿地区における未開通道路について

齋藤照夫（さいとうてるお）　議員

問　小針新宿地区内における未開通道路の進捗状況について。

答　現在未開通である都市計画道路高野屋敷宿之内線は、昭和60年11月に都市計画決定され、平成22年度に地権者4名のうち3名と土地売買契約を締結し、残り1名についても、当初は用地買収に応じる意向があったため平成23年度に用地買収を完了、街路整備も完了させる計画であったが、未買収地の隣地との境界問題等から地権者の意向が急変し、用地買収ができなかったため未買収地を残して工事を実施した。残る1名の地権者に対して交渉を継続してきたが、現在まで用地買収に応じてもらえず、工事未整備部分が残り道路を開放できない状況である。

問　開通に向けての今後の対応策は。

答　未買収地が残った状態で道路整備工事から4年が経過し現在も用地買収の見込みが立たないため、未買収地を除いた部分での暫定的な部分での道路開放に向け、上尾警察署と協議を重ねている。

問　道路を作業場や駐車場に使用している会社があるが町の対応策は。

答　定期的に見回り、道路を使用しないよう指導をしている。指導後には改善するが、また直ぐ使用される。今後強固なバリケード等を設置したい。

早期開通が待たれる小針新宿地内の道路

行政事務の電子化による効率アップとICT推進

上野克也（うえのこくや）　議員

問　行政事務の効率アップと業務執行に、タブレット端末の導入とICT化の推進は。

答　タブレット端末は紙の節約や業務の効率化に期待でき、町のPRにも効果的である。今後ICT化について費用対効果を勘案しながら、タブレット導入を含め研究していく。

地域防災計画／スマホ画面

「災害廃棄物処理計画」

問　災害廃棄物処理の現状と計画策定の状況は。

答　災害で使用できなくなった家財などの処分については、処理手数料を減免することで対応した。災害廃棄物処理計画の策定は「伊奈町地域防災計画」の中で取り決めている。また、自治体間や民間との協力体制は、埼玉県清掃行政研究協議会と「災害廃棄物等の処理に関する相互支援協定」を締結している。

「障害者差別解消法」が平成28年4月から施行

問　この法理は「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」に関し対応要領を定めるよう求めているが対応は。

答　法律の施行に向け準備をしている。また、障害を理由とする差別の解消推進に向け広報等の啓発も進めていく。

人事評価制度導入について

水上邦雄（みずかみくにお）　議員

問　評価体制は。

答　係長以下は、本人の自己評価、課長補佐級による一次評価、所属長による最終評価となる。課長職の場合は、自己評価、統括監による一次評価、副町長による最終評価となる。

役所に人事評価制度はなじまないのでは!!

問　評価手法は。

答　一定の尺度、基準による評価で絶対評価となる。

問　苦情相談・苦情処理は。

答　総務課で対応する。

人事評価制度の運用は

問　公務職場では数値が出ない部分が多い。評価する側とされる側双方に心理的な負担から、ここころの病になるとの指摘もあり、留意すべき。配置基準は。

答　職制上の人数、職務経験、人事評価の結果、自己申告等総合的に判断している。

問　昇格の基準は。

答　経験年数と人事評価に基づき行う。

特定健診について

問　県内トップの受診率のさらなる向上を。

答　個別の受診勧奨も行い、受診率向上に努める。

問　健康プロジェクトの実施。

答　県モデル事業の毎日1万歩運動の実施検討している。